

資源循環型社会の実現

考え方

社会的背景

急速な経済成長の中、消費される資源の増大に伴う天然資源の枯渇や資源採掘による自然破壊、廃棄物の埋立処分場の逼迫や周辺汚染などが問題になってきています。そのような中、地球上の限りある資源を有効活用するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）、資源の再生利用（リサイクル）の3Rの重要性が高まっています。また、その取り組みについては、自社の事業活動の範囲にとどまらず、サプライヤーやユーザーを含め、ライフサイクル視点での取り組みが求められています。



カシオグループにおけるリスクと機会

資源の枯渇が深刻化すると原材料のコストが増大し、生産に大きな影響を与える懸念があります。また、モノづくりを行うメーカーとして、持続可能な社会の実現に向けて環境配慮型製品の開発は不可欠であり、お客様からの期待や要求も高まっています。そのような中、環境配慮型製品の開発が遅れることでお客様からの支持と選択を失いかねません。事業活動で発生する廃棄物についても、埋立処分等による環境汚染が発生しないとも限りません。それらのリスクに備えるため、製品開発ではリサイクルしやすい材料の選定や新構造開発など製品設計の改善を推進し、新技術創出や資源効率向上によるコストダウンに結び付けていきます。また、事業活動で発生する廃棄物についても埋め立てゼロの実現を目指していきます。

方針

カシオは資源循環型社会の実現を目指し、バリューチェーン全体を通じて省資源化や資源循環を目指しています。製品の取り組みにおいては、開発・設計段階から使用後のリサイクルまで、小型軽量化や長寿命化、リサイクル設計など環境に配慮した製品づくりをおこない、自社基準を満たした製品を「カシオグリーン製品」「カシオスーパーグリーンスター製品」として認定しています。また、各事業拠点で発生する廃棄物については、発生量の削減に努めるとともに再資源化比率の向上を推進し、埋立処分量ゼロを目指します。

マネジメントアプローチ

環境活動 行動目標・実績

評価 ◎：すべての目標達成、○：目標をおおむね達成、△：成果より課題が残る、×：進捗なし

中長期目標	2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
2025年度までにグリーンスター製品の売上比率90%を目指す	カシオグリーンスター製品 売上比率60%を目指す	売上比率69%	◎	カシオグリーンスター製品 売上比率70%を目指す
	カシオスーパーグリーンスター製品の新規開発を促進する	2017年度の新規認証機種は該当なし（認証機種累計数は35機種）	△	- ※目標管理は実施しないが、カシオスーパーグリーンスター製品の新規開発促進は継続する。
2030年度までに事業拠点廃棄物の再資源化率100%を目指す	再資源化処理状況の実態調査を行う	華南地域5拠点の実態調査実施 ・香港カシオ・カシオシンセン・中山カシオ・カシオ東莞・カシオ韶関	○	事業拠点廃棄物の再資源化率92%以上とする

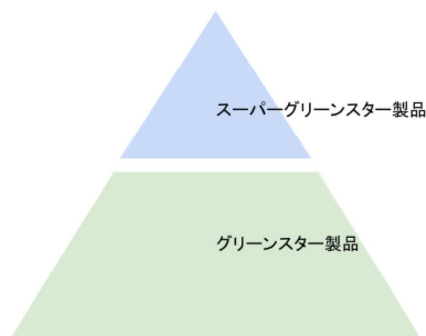
資源循環型社会の実現

環境配慮型製品（カシオグリーンスター製品）の開発

カシオは、製品の環境負荷を最小にするため、企画、デザイン、設計の各側面から環境に配慮した商品開発を推進しています。1993年から環境適合製品を体系化し促進するため、「製品アセスメント評価」を開始し、新製品を対象に環境への影響を事前評価し、基準を満たした製品を「カシオグリーン製品」として認定し、売上比率向上を図ってきました。

2009年には、環境性能の面からより厳しく、優れた評価を得た製品を「カシオグリーンスター製品」として認定し、さらに2016年に、より高い環境性能を有した「カシオスーパーグリーンスター製品」を設け、運用を開始しました。

グリーンスター製品・スーパーグリーンスター製品のアセスメント項目



カシオグリーンスター製品・カシオスーパーグリーンスター製品評価項目各製品の評価項目

製品環境アセスメント
1. 再資源の促進
2. リサイクル設計
3. 単一素材への分解
4. 再資源化向上
5. 省エネ化
6. 化学物質の使用規制
7. 電池の再資源化
8. 電池リサイクル表示
9. 法規制準拠
10. 単一分別・分離
11. 梱包材の使用規制
12. 自然環境保護

※100点中80点以上

カシオグリーンスター製品 評価項目
1. 省エネルギー G
2. 資源有効利用 G
3. 特定有害化学物質廃止
4. LCA環境影響評価 G
5. 特別事項 G

※上記項目該当有り

カシオスーパーグリーンスター 製品 評価項目
1. 省エネルギー S
2. 資源有効利用 S
3. LCA環境影響評価 S
4. 特別事項 S

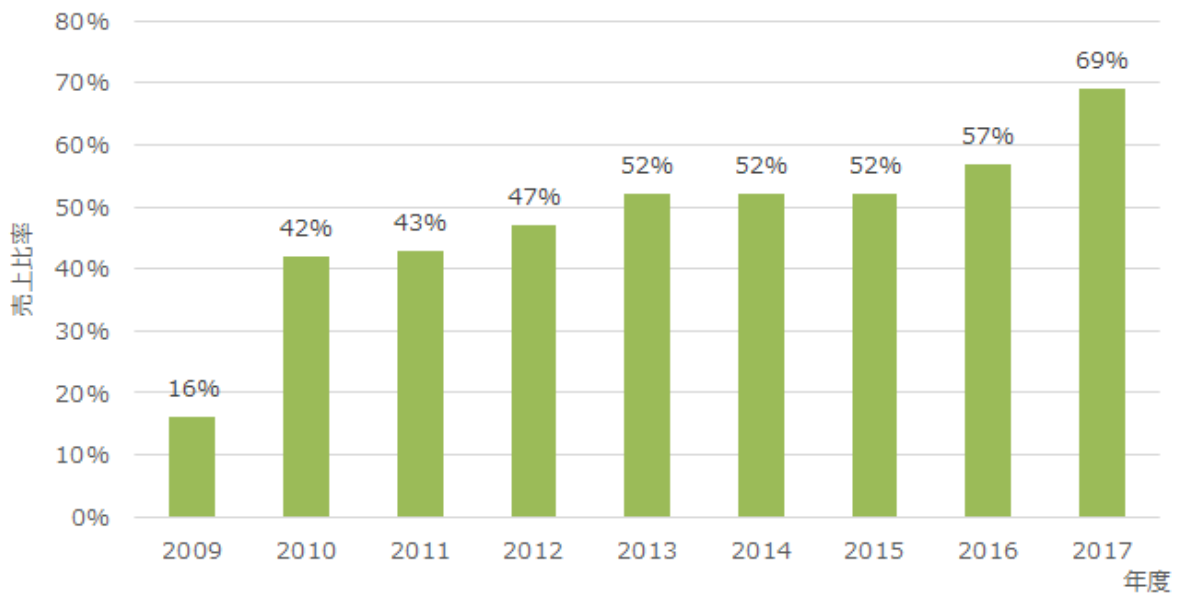
※上記項目該当有り

カシオグリーンスター製品の売上げ比率の実績

カシオグリーンスター製品は売上げ比率目標を掲げて促進を図っています。2016年度には中期目標として「2020年度までにカシオグリーンスター製品の売上げ比率70%を目指す」と設定しましたが、2017年度の実績が69%となり、早期に目標値を達成できる見込みとなりました。そこで、更に高い目標を掲げるために、「2025年度までにカシオグリーンスター製品の売上げ比率90%」という新たな中期目標を再設定いたしました。

また、環境製品の最高位の位置づけとして2016年度より設けた「カシオスーパーグリーンスター製品」の認定拡大も引き続き促進していきます。

カシオグリーンスター製品の推移



カシオスーパーグリーンスター製品の紹介

カシオスーパーグリーンスター製品は、これまでに35機種が認定されました。認定された製品（シリーズ）の一部を紹介します。

電卓 ※再生プラスチックを70%以上使用（プラスチック総重量比）



SL-760ECO、SL-760GT



SL-305ECO、SL-300AECO



JF-120ECO



DF-120ECO



DS-2DB

プロジェクター ※光束が12 lm/w以上



XJ-F10X, F100W, F20XN, XJ-F210WN



XJ-UT351W, UT351WN



XJ-V1, XJ-V10X, V100W, V110W

カシオグリーンスター製品の紹介



カシオグリーンスター製品に認定された製品（シリーズ）を紹介します。（写真は一例です）このマークは、グリーンスターコンセプトに基づき開発された商品であることを表します。

電卓 JS-20WK-N



環境仕様

- ・ソーラー電池を採用
- ・再生プラスチックを40%以上使用（プラスチック総重量比）
- ・エコマーク認証取得(認証番号 NO.06 135 002号)

電子辞書 XD-Z4800



環境仕様

- ・パッケージの小型化により輸送効率を102%向上(当社XD-SP6600と比較)

関数電卓 FX-JP900



環境仕様

- ・ソーラー電池を採用
- ・パッケージの小型化により輸送効率を34%向上(当社モデルFX-375ESと比較)
- ・エコマーク認証取得(認証番号 No. 06 135 002号)

電子文具 KL-V460



環境仕様

- ・使用時の消費電力を28%削減(当社KL-V450と比較)

データプロジェクター XJ-F210WN



環境仕様

- ・光源に水銀を使用しておりません
- ・エコマーク認証取得(取得番号 15 145 029)

電子楽器 GP-500



環境仕様

- ・使用時の消費電力を24%削減(当社AP-500と比較)

ウォッチ OCW-S4000C/SHW-5000LTD



環境仕様

- ・ソーラー電池の採用

ハンディターミナル IT-G500



環境仕様

- ・使用時の消費電力を24%削減
- ・パッケージの小型化により輸送効率を53%向上(当社DT-5300比較)

スマートウォッチ WSD-F20



環境仕様

- ・2つの液晶を使い分けることで省エネを実現

> [カシオグリーンスター製品一覧](#)

その他の環境適合製品一覧

- > [エコマーク認定製品](#)
- > [ブルーエンジェルマーク](#)
- > [グリーン購入法登録製品](#)

資源循環型社会の実現

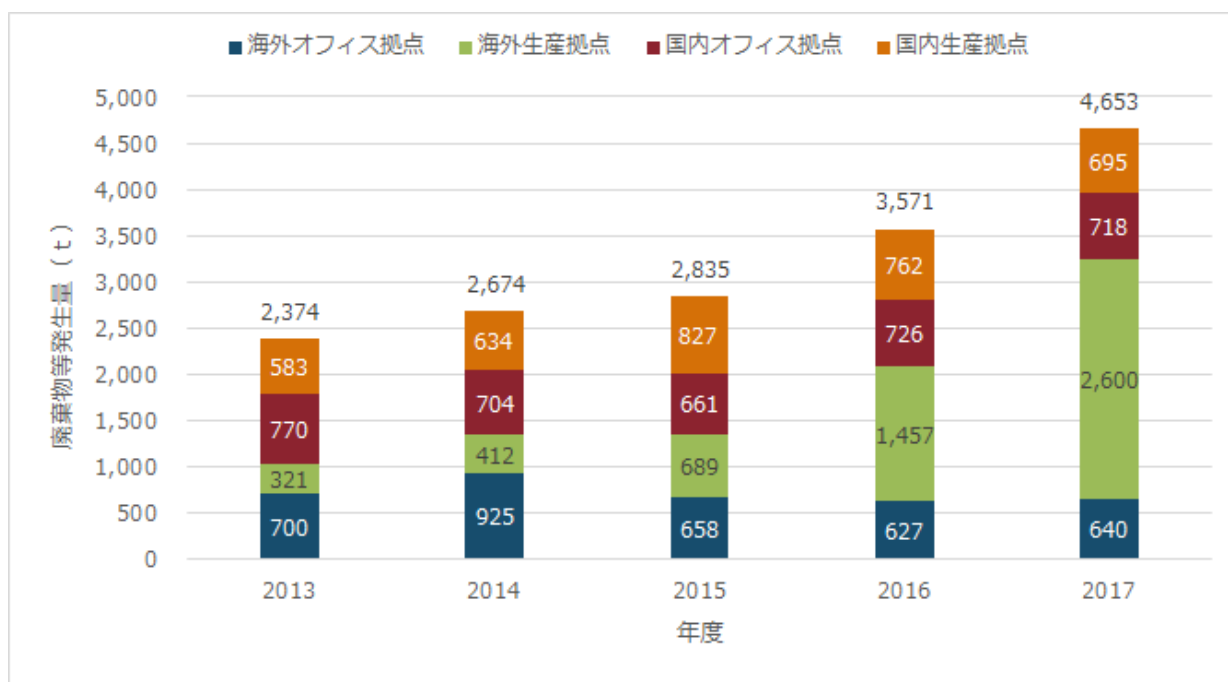
廃棄物等発生量の削減と再資源化

カシオは事業活動で発生する廃棄物の削減と再資源化に取り組んでいます。廃棄物等発生量（廃棄物・有価物の合計）は2016年度より増加傾向にあります。これは海外生産拠点の拡大などが主な要因となっております。

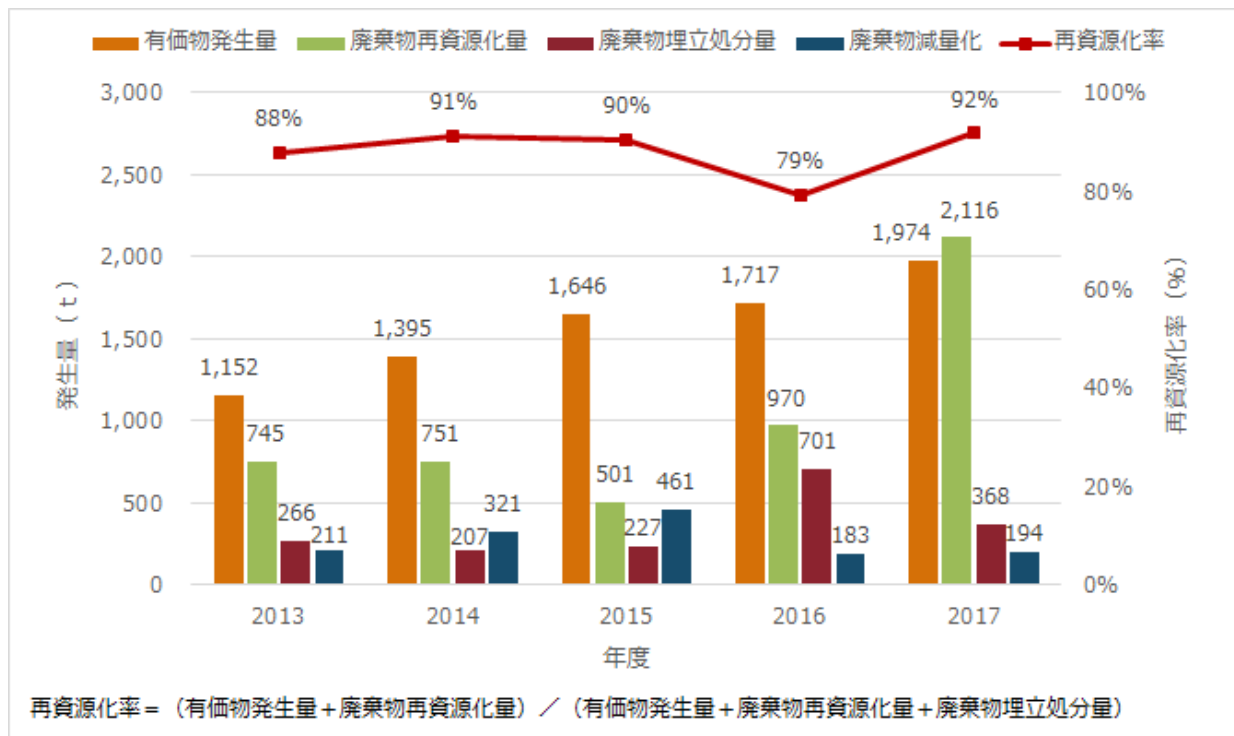
また、カシオは廃棄物の埋め立てゼロを目指して再資源化比率100%の目標を掲げていますが、各拠点の廃棄物処理状況の把握が十分ではないため、2017年度は海外生産拠点の実態調査を行いました。

今後は海外生産拠点の廃棄物削減に注力するとともに、再資源化比率向上の取り組みを強化していきます。

廃棄物等発生量の推移



廃棄物等発生量の処理内訳と再資源化率の推移



資源循環型社会の実現

回収・リサイクル

製品の回収・リサイクルにかかわる取り組みを紹介します。

製品リサイクルの取り組み

製品の回収は、関係法律に基づき義務として行う活動と、企業が自主的に実施する活動があります。ここでは、カシオが自主的に実施している製品リサイクルを紹介します。

「ゴミを出さない」リサイクル

使用済みテープカートリッジとインクリボンカセットを回収・分解し、再度同じ製品を作る材料に利用しています。皆様のご協力をお願い致します。



回収・リサイクル法に基づく回収と自主的回収のご案内

- ＜法人向け使用済み情報通信機器の回収
 - ＜使用済みパソコン、情報機器の回収・再資源化の状況
- ＜使用済みドラムセットの回収
- ＜カートリッジ・インクリボンの回収
- ＜小型二次電池（充電式）の回収

海外での製品リサイクル

- ＜欧州における製品リサイクル

資源循環型社会の実現

水使用量の削減

カシオでは、水使用量について総量目標を設定して管理してきました。当社事業の特性から事業活動における水使用量の中心は生活用途であり、生産活動での水使用量は一部の部品の洗浄などに限られています。このため、環境マネジメントシステムを長年継続してきた主要拠点では水使用量の最小化が一定の水準まで進んでおり、拠点の廃止や新設など 通常の事業活動とは異なる状況が発生した年に、大きな増減があるという状況に至っています。今後も生産拠点の水使用量の目標管理により使用量の削減に努めます。

水資源投入量の推移

